

平成23年度第2回 芦屋すこやか長寿プラン21策定委員会 会議録

|       |  |  |
|-------|--|--|
| 日 時   | 平成23年5月30日(月) 13:30~15:30  |  |
| 場 所   | 北館2階 第3会議室   |  |
| 出席者   | 委員長 山本 隆<br>委員 岡本 直子<br>・ 内山 忠一<br>・ 安宅 桂子<br>・ 平馬 忠雄<br>・ 田中 喜代子<br>・ 小林 正美<br>・ 岡本 仲充<br>・ 神棒 真一<br>・ 佐々木 朋子<br>・ 津村 直行<br>欠席委員 多田 梢<br>・ 柴沼 元<br>事務局<br>(高年福祉課) 安達 昌宏 (介護保険担当) 永井 喜章<br>・ 奥村 享央 ・ 木野 隆<br>・ 山崎 元輝 ・ 鯉川 敬子<br>(株)ぎょうせい) 山崎 猛 ・ 吉川 里香<br>(地域福祉課) 寺本 慎児<br>・ 細井 洋海 |  |
| 事務局   | 高年福祉課  |  |
| 会議の公開 | 公開   |  |
| 傍聴者数  | 3人   |  |

1 会議次第

(1) 開会 委員長挨拶

(2) 議事

第6次芦屋すこやか長寿プラン21における推計人口について  
 アンケート調査の集計結果(概要)について  
 計画策定のスケジュールについて  
 関係団体等意向調査及び施策方向検討調査について

(3) その他

2 提出資料

資料1 芦屋すこやか長寿プラン2.1見直しのためのアンケート調査報告書

資料2 芦屋市将来人口推計報告書(概要版)

資料3 芦屋すこやか長寿プラン2.1策定業務スケジュール

3 審議経過

開 会

(1) 第6次芦屋すこやか長寿プラン2.1における推計人口について

(事務局 安達)

「第6次芦屋すこやか長寿プラン2.1における推計人口について」事務局より説明。

(山本委員長)

事務局から芦屋市の人口推計について説明していただきました。人口推計は、介護サービス事業の計画に大変重要な指針です。少子高齢化についても大変重要なデータでありました。東京を除いて日本全国の人口は減少しているということも言えると思います。

(小林委員)

小学校区別の将来推計のことで、全体的にみると高齢化率は上昇していますが、朝日ヶ丘地区は高齢化率が上昇し、人口が減少しているということは、若年層が更に減少していると理解してよろしいのでしょうか。

(事務局 安達)

我々もそのように理解しております。

(山本委員長)

今回のデータにより少子高齢化は現実であると理解し、高齢社会と向き合うという発想の転換、それが今回の計画に活かされればと思います。最近の出生率を見ましても子どもが増えるということはありません。それに対して社会、経済の体制がどう向かえるかということになると思います。

芦屋市の地域性はすごく魅力的な市であると思います。高齢化を止めたい施策より高齢化は先進国や、豊かな国であるほど必ず起こってしまうものなので、高齢化を止めることよりも少子高齢化を乗り越えるような施策の発想が必要だと思います。

人口につきまして他にご質問はありませんでしょうか。ないようでしたら、次の議題に移りたいと思います。

(2) アンケート調査の集計結果(概要)について

(事務局 安達 木野)

「アンケート調査の集計結果(概要)について」事務局より説明。

(山本委員長)

アンケート調査の結果について事務局より詳しく説明していただきました。調査結果

を踏まえ我々も理解し、今後の策定委員会に活かしていきたいと思います。

(平馬委員)

アンケートに歯科検診という質問がありますが、芦屋市で歯科健診を受けるという制度があるのでしょうか。

(事務局 細井)

特定健診のように定期的にはおこなっていませんが、虫歯予防週間のときに歯科医師会のご協力で無料の歯科検診をおこない、あるいは福祉センターで歯科検診をおこなっています。

(平馬委員)

特定高齢者の選定方法とはどういったものでしょうか。

(事務局 吉川)

厚生労働省のチェックリストを利用し、対象者のかたを把握するものです。

(平馬委員)

アンケートの25ページにある「全体」の人数ですが、項目により人数の違いがあるのは何故でしょうか。

(事務局 ぎょうせい 山崎)

無回答は人数に加算されないため人数の違いが生じてしまうということです。

(田中委員)

一般高齢者のアンケートのことで、14ページに「経済的に出られない」という項目がありますが、どういった事情で「経済的に出られない」となるのでしょうか。またどういった事情があつてこういう質問がでたのでしょうか。

(事務局 安達)

買い物や趣味には金銭が必要です。外出に金銭が必要だと、経済的に外出できない事情となり「経済的に出られない」ということになります。

(事務局 ぎょうせい 山崎)

「経済的に出られない」という質問の意図は、単純集計の結果であり、お住まいがどこであるとか、住まいの種類がどのようなものなのかを、この集計を合わせることで分析がより深くできます。その一つの質問と考えていただければと思います。

(神棒委員)

介護保険について計画していく上で、人口推計することはとても重要なことだと思います。人口推計のデータを正確に、また迅速に公開し、介護保険にどれ程の財源が必要なのかという議論をおこなわなければならないと思います。マクロの話だけではなく、ミクロの話をおこなってほしいということを、市民を代表してお願いしたいと思います。

(山本委員長)

今後介護保険はどうなっていくのだろうという疑問は出てくると思います。震災の関

係で地方に情報が行き届かないという問題や、少子高齢化も問題になっています。そういった問題を抱えながらも、震災の影響で国は介護保険どころではないといういわゆる国難という状況に陥っております。介護保険の指針を早急に立てていかなければならないところですが、こういった状況ですので県や市は、限られた枠組みの中で介護保険の計画を立てていかなければならないということになります。

一部新聞等で報道されていましたが、介護保険の支払いが始まる年齢を下げた保険料を下げるという案がでているようです。保険料がなければ介護保険の運用ができないということになりますので、重要な問題であると思います。ただこれは本格的な議論に至っておりませんが、今後の課題になると思います。

(神棒委員)

介護保険の予算は明確な数字はわかりませんが、例えば10兆円予算を組むと負担はもちろん国民になると思います。私は介護保険料としての負担が高くても介護保険のサービスが充実していれば賛成できます。ただそれは、介護保険という情報を知っているからであって、あまりそういった情報を知らないかたにとってはもちろん賛成しないと思います。

(山本委員長)

時間の関係もありますのでアンケート調査結果についてはここで終わりたいと思いますが、今回の議論は今後続くということですのでよろしいでしょうか。現段階で結論はできませんので、また次回に持ち越したいと思います。今回はアンケート結果の報告ということで、次回は、計画施策反映ということでまた話し合っていきたいと思います。

(3) 計画策定のスケジュールについて

(事務局 安達)

「計画策定スケジュールについて」事務局より説明。

(山本委員長)

事務局より説明していただきましたが、透明度の高い情報提供でありまして、私としては非常に分かりやすい資料であると思います。芦屋市の行政レベルが高いものであり、誠実さを感じました。他市ではこういった透明度の高い資料はありませんでした。事前打ち合わせがなかった市もありました。芦屋市は非常に丁寧な策定作業をおこなっているという印象をもちました。

スケジュールについて事務局から説明ありましたが、ご質問、ご意見ありましたらお願いします。

(内山委員)

8月一度開催ということを言われましたが、分析等間に合うのでしょうか。他に何をおこなうのか教えてください。

(事務局 安達)

現行計画につきましては、8月にすこやか長寿プランの評価委員会をおこないます。

他には今年度の上半期分析データを作成しご意見いただきたいと思っております。課題分析については、本日のアンケート調査について次回もう少し詳しく話し合い、ご意見いただきたいと思っております。施策の方向性は、8月では難しいと考えております。8月ごろ国から計画についてなんらかの指針が出ると思っておりますので、その報告をさせていただきます。9月のみでは難しいと考えましたので、8月一度開催させていただくこととしました。

(山本委員長)

地域別分析は出来ると思いますが、今後の計画をしていく中で、国からなんらかの情報がでないかぎりには計画を立てていくことは難しいので、8月国からの情報を待って、それから話しをしていきたいと思っております。

それでは次の議題に移りたいと思っております。

(4) 関係団体等意向調査及び施策方向検討調査について

(事務局 永井)

「関係団体等意向調査及び施策方向検討調査について」事務局より説明。

(山本委員長)

事務局より関係団体等意向調査について説明ありました。

これまで色々説明がありましたが、最初に遡っていただいてもかまいませんので質問等、ご意見ありましたらお願いします。

(岡本委員)

利用者のご家族は認定結果よりももう少し介護度は重たいのではないかと感じるかたがいらっしゃると思います。例えば、要介護4で支給限度額超過となるかたが、介護5となつてほしいところを、介護4の判定がでてしまう。こういった介護認定は改善していかなければならないように感じます。そうでないと、思ったサービスが受けられないと思っております。

(山本委員長)

私の意見ですが、介護保険が出来る前のお話で状態の把握というのは、諸外国は専門家がおこないます。日本の場合は専門のかたを作らないといけないと思っております。日本の介護認定は厚生労働省から、数多くの調査項目がでていますが、どうしても地域差というものがでてきてしまう恐れがあります。その点についてはまた議論をしていきたいと思っております。また、一方通行でおわっている部分が多くみられると感じます。そうではなく、結果に対して問い合わせるといのも大事だと思います。行政はその説明責任を果たしていくという形が大事であると思っております。次の計画の課題とさせていただきますと思っております。

(岡本委員)

利用方法についてご説明いただきたいのですが、サービスの利用量について独居であ

るかたのほうがご家族と同居のかたがいるよりもサービスの利用割合が高いとありますが、ご家族が介護をする場合と独居のかたのサービスの必要度として考えると、差はないと感じますがその部分で詳しく説明していただけないでしょうか。

(事務局 安達)

今回の調査のほとんどが日常生活圏域のニーズ調査によるものであります。仰るとおりアンケート調査だけでは各圏域で一般高齢者や、要支援者、要介護者がどういった状況なのかということがこれだけでは不明確であるのは確かであります。それをもう少し分類、分析していきたいと思えます。

(山本委員長)

今回のアンケート調査は画期的でして、このデータベースにより自治体比較ができるようになる。芦屋市はサービス量が他市よりも平均値が高いですが、なにが高いのか地域特性が関係して多いのかを数字上で管理ができ、客観的な根拠になると思えます。今後の課題としてそれが地域の計画において修正してほしいということだと思えます。国のほうは非常に好都合で、全国自治体のデータがニーズに対する新たな対応になるのかを判断できますし、画期的なデータが収計されるだろうと思えます。委員の質問にも将来どうなるのかとありましたが、客観的な指標として現状ではこういった利用、将来のリスクを越えるためにはこういった利用を追加というふうに発展していきますので、説得性としても今回のデータは使えると思えます。地域別の計画の仕方というのもあると思えますが、一つの客観的なスタンダードも必要なのではないかと思えます。

それでは次回圏域分析が課題となっていますので議論をしていきたいと思えます。

閉 会